

私たちが住み込んでいる世界の秘密——

目の前の謎と、真剣に、誠実に付き合うということ

左右を哲学する

清水将吾

2024年3月25日刊行予定 四六判・並製 204頁 本体定価1800円 SBN978-4-910154-52-7 C0010

永井均氏評——左右とは何か？ 謎はただ解けばよいのではない。

謎の真の意味を突き止めることこそが不可欠で、それが本書で実現されている！

日常の当たり前前にひそむ神秘、それは言語に由来するのか、それとも〈生〉に驚きと活気を与える仕掛けなのか。

ウィトゲンシュタインの思考装置を参照しながら、私たちが住み込んでいる空間認識の常識を揺さぶる。そこでは、いま・ここに生きてあることの謎に触れる、豊かな可能性が見えてくる。

目次

第一部

はじめに

1 向きと左右

コラム なぜ鏡は左右を反転させるのか？

2 左右っていったい？

コラム 左右反転眼鏡の実験

3 次元と方位

コラム 「左右」の意味は言葉だけで伝えられるか？

4 身体の秘密

コラム カントの思考実験

第二部

対話

谷口一平さんと

成田正人さんと

清水将吾

1978年生まれ。立教大学兼任講師。上智大学と東邦大学で非常勤講師を務める。ウオーリック大学大学院哲学科でPhDを取得後、日本大学研究員、東京大学UTCP特任研究員、特任助教を経て、現職。NPO法人こども哲学おとな哲学アーダコーダ理事。著書に『大いなる夜の物語』（ぶねうま舎、2020年）、分担執筆書にFrom Existentialism to Metaphysics: The Philosophy of Stephen Priest（ピーター・ラング、2021年）、『ゼロからはじめる哲学対話』（ひつじ書房、2020年）、Philosophy for Children in Confucian Societies（ラウトレッジ、2020年）、『ペルクソン『物質と記憶』を診断する——時間経験の哲学・意識の科学・美学・倫理学への展開』（書肆心水、2017年）がある。共監訳書に、マシュー・リップマンほか『子どものための哲学授業——「学びの場」のつくりかた』（河出書房新社、2015年）、共訳書に、バリー・ストラウド『君はいま夢を見ていないとどうして言えるのか』（春秋社、2006年）がある。

締め切り 3月8日

Fax. 03-5228-5843

ぶ
ね
う
ま
舎

左右を哲学する

46判・204頁 本体定価1800円

ISBN978-4-910154-52-7 C0010

貴店印

新刊委託

冊